

2017年 万引防止システム市場規模調査

－ 調査報告書説明資料－

2018年6月7日

はじめに

本調査は、万引防止システムの市場規模を把握し、今後の万引防止システムの普及促進のための基礎資料とすることを目的としています。

今回の調査では、日本万引防止システム協会の会員企業（22社）及び万引防止システムを製造・販売している非会員企業（22社）あわせて44社に対してアンケート調査を実施しました。

そのうち、24社（正会員：20社 非会員：4社 回収率：54.5%）からの回答を得て、報告書を作成しております。

本調査は、2015年にも同調査を実施しており、データを比較しております。今年度より「顔認証システム」そして万引防止を目的とした「RFIDゲート」の調査も実施しております。

尚、市場規模調査の報告書は回答いただいた企業様に限定して送付させて頂いております。

本日は、報告書の要点のみを抽出し、ご説明させていただきます。

【EAS機器等の設置台数】

* 報告書 5P

2017年のEAS機器の設置台数は、**13,824台**でした。

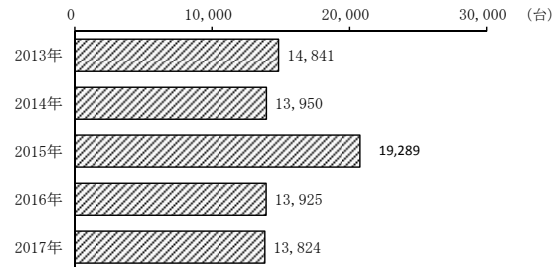
*天井式、マット式、ゲート式ともにゲート（アンテナ）1機につき1台とカウントしています。
2本立=2台 3本立=3台

2015年に一時的に大幅な伸びがありましたが、それを除くと2013年より減少傾向にあります。

2013年以前の過去のデータを見ると、2008年まで市場は右肩上がりに拡大し2006年～2008年までは1万8千台前後を維持していました。2009年から大きく減少し、ここまで1万2千台～1万4千台の間で推移しています。

*2015年除く

図表1 EAS機器等の設置台数



<設置台数及び伸び率>

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
設置台数 (台)	14,841	13,950	19,289	13,925	13,824
伸び率※ (%)	-	▲6.0	38.3	▲27.8	▲0.7

※伸び率 = (当年設置台数 ÷ 前年設置台数 - 1) × 100

【業種別設置台数】

* 報告書 7P

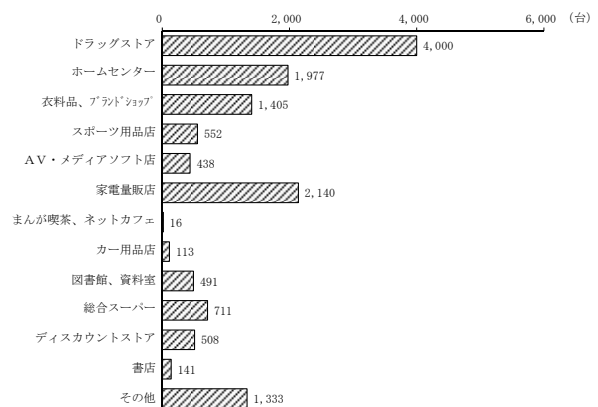
業種別に設置状況を見ると、「ドラッグストア」が最も多く、以下「家電量販」、「ホームセンター」、「その他」、「衣料品」と続きます。

ドラッグストア、家電量販、ホームセンターについては、2013年から増加傾向にあります。また、台数は少数ですが、図書館・資料室は、2013年の250台から491台と2倍近くに増えています。

一方で衣料品、総合スーパー、書店、その他においては、減少傾向にあります。

*報告書7～9P参照

図表2 2017年のEAS機器等の設置台数 (店舗別)



注:「その他」は、携帯ショップ、釣具店、コンビニ、専門スーパー、百貨店、代理店、事務所、ショッピングセンター、ショールーム、研究所、工場、学校など。

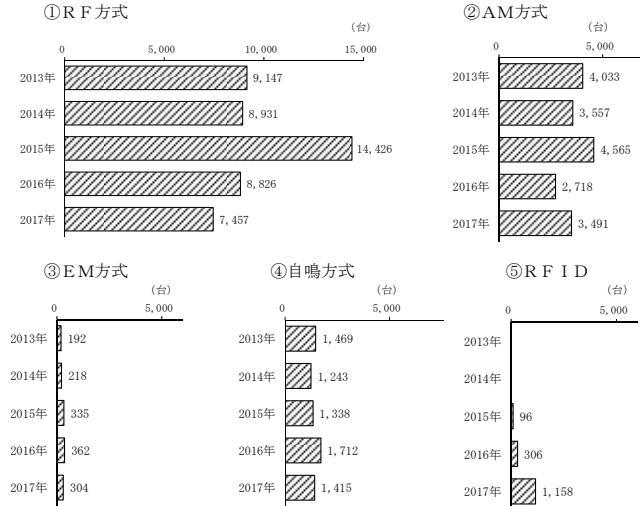
【動作方式別 設置台数】

* 報告書 13P

EASの方式別シェアをみると、RF方式がこれまでと変わらず最も大きく、次いでAM式、自鳴式、RFID、EM式となっています。

RF式については、2015年に大きく台数を伸ばした影響もあり、2016年、2017年と台数が減少しています。AM式については、取り扱う企業が増えたこともあり、2017年は増加しています。
EM式はほぼ横ばい、自鳴式は2016年に大きく増加しましたが、2017年は例年並みとなっています。今回より新たに追加したRFIDについては、この3年で大きく設置台数を増やし、自鳴式に迫る勢いとなっています。

図表7 EAS機器等の設置台数（動作方式別）



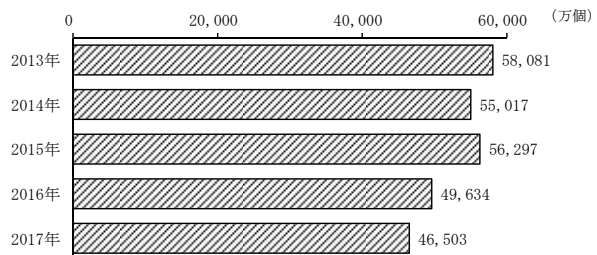
【タグの出荷数量】

* 報告書 15P

2017年のタグ出荷総数は、**4億6503万個**となりました。

こちらもゲート台数と同様に、2015年に若干増加となりましたが、全体的に減少傾向にあります。タグの種類別にみると、ラベル式とハードタグの落ち込みが激しく、自鳴タグについては、ほぼ横ばい、インクタグについては緩やかな減少が続いています。今年から追加したRFIDタグは、350万個と大きく増加しています。

図表9 EASタグ・RFIDタグの出荷数量



< EASタグ・RFIDタグの出荷数量及び伸び率 >

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
出荷数量 (万個)	58,081	55,017	56,297	49,634	46,503
伸び率※ (%)	-	▲5.3	2.3	▲11.8	▲6.3

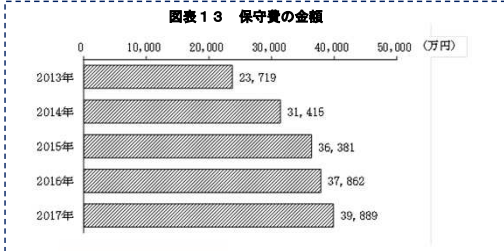
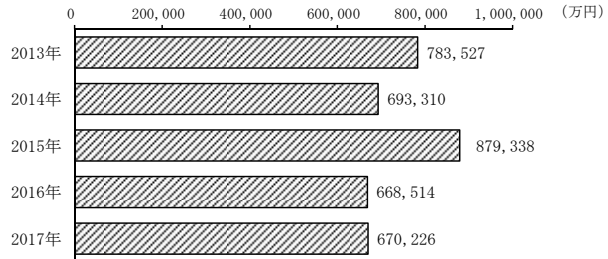
※伸び率 = (当年出荷数量 ÷ 前年出荷数量 - 1) × 100

【EAS機器等の出荷金額】

* 報告書 18P・19

2017年のEAS機器等の出荷金額は、**67億226万円**となりました。こちらも2015年のデータを除くと、全体的に減少傾向にあります。過去のデータを見ると、2006年に120億を超えており、当時に比べ市場規模は40%以上縮小しています。一方で、保守金額は年々増加しています。

図表 1 2 E A S 機器等の出荷金額



< E A S 機器等の出荷金額及び伸び率 >

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
出荷金額 (万円)	783,527	693,310	879,338	668,514	670,226
伸び率* (%)	-	▲11.5	26.8	▲24.0	0.3

*伸び率 = (当年出荷金額 ÷ 前年出荷金額 - 1) × 100

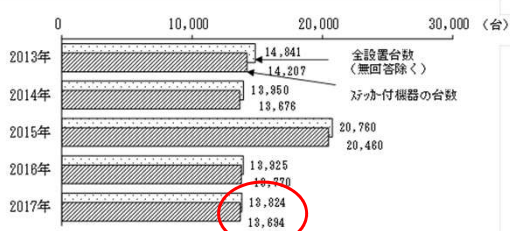
JEAS 日本万引防止システム協会

【EAS機器表示ステッカー、EAS機器導入店表示POP】

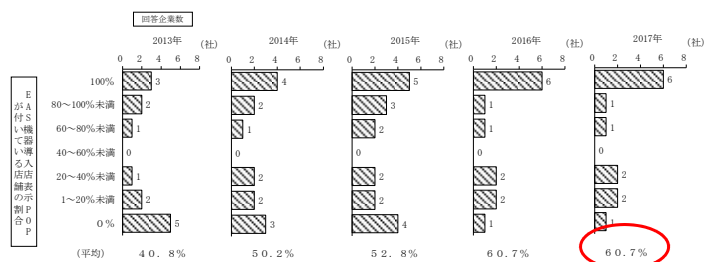
* 報告書 11、12P

EAS機器表示ステッカーが付いている機器の台数は、**13,694台**で、全設置数(13,824台)に対し**99.1%**の貼付率となっています。こちらについては、年々貼付率は高くなっており、各社にステッカーの意義が十分に浸透していることが分かります。一方で、EAS機器導入表示POPについては、全設置数の**6割程度**の貼付率となっており、十分に徹底がされていません。ただし、この5年間で40%から60%に貼付率がUPしていることから、徐々に改善されてきていることが分かります。

図表 5 E A S 機器表示ステッカーが付いている機器の設置台数とその割合



図表 6 E A S 機器導入店表示POPが付いている店舗の割合



JEAS 日本万引防止システム協会

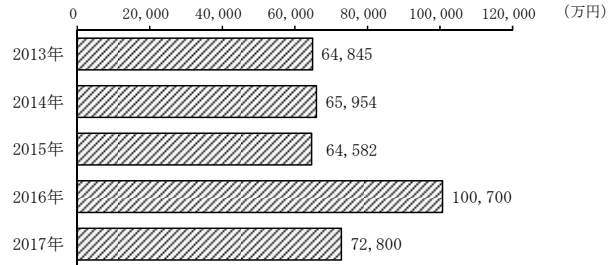
【ケーブル式盗難防止機器の出荷金額】

* 報告書 20P

2017年のケーブル式盗難防止機器の出荷金額は**7億2800万円**となりました。

2015年まではほぼ横ばいで推移していましたが、2016年より大きく変動しています。これは、前回調査より携帯電話ショップで多くみられる、展示商品への電源供給機能を含んだ機種についてもアンケートに加えたことが大きな要因と思われます。

図表 14 ケーブル式盗難防止機器の出荷金額



<ケーブル式盗難防止機器の出荷金額及び伸び率>

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
出荷金額 (万円)	64,845	65,954	64,582	100,700	72,800
伸び率※ (%)	-	1.7	▲2.1	55.9	▲27.7

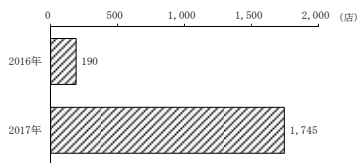
※伸び率 = (当年出荷金額 ÷ 前年出荷金額 - 1) × 100

【顔認証システムの設置店舗数と売上】

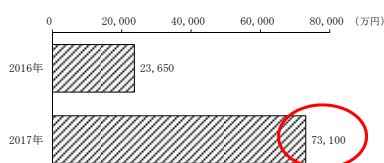
* 報告書 21、22P

2017年の顔認証システムの設置店舗数は**1,745店**で、出荷金額は**7億3100万円**となりました。2016年から設置店舗数、出荷金額ともに大きく増加しています。店舗別にみると、「ドラッグストア」が**1600店舗**と突出しており、次いで「食品スーパー」(107店)、「書店」(10店)、「衣料品・ブランドショップ」(2店)となっています。

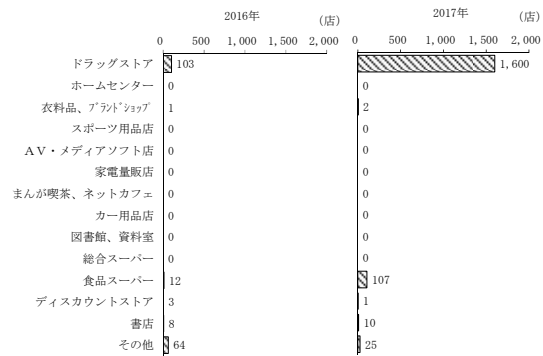
図表 15 顔認証システムの設置店舗数



図表 16 顔認証システムの売上 (出荷金額)



図表 17 顔認証システムの設置店舗数 (店舗別)



注：「その他」は、病院、官公庁、百貨店など。

【まとめ】

【EASの市場について】

日本で万引防止システム（EAS）が販売されてから、およそ50年が経とうとしています。

日本市場におけるEASの製品ライフサイクルは、導入期・成長期を経て成熟期に移行しています。

今回のアンケート結果からも、徐々に市場規模が縮小してきていることが伺えます。

しかし、海外の大手小売業を見ても、**依然としてEASへの信頼度は高く、EASが万引ロスに対する最も効果的なシステムであるという評価は変わっていません。**

当協会としても、日本の小売業のロス率改善に向け、今一度EASの導入効果を広くアピールし、効果的で安全なEASの運用方法を知って頂くための啓発活動を続けて参りたいと思います。

【新たな市場について】

今回のアンケートから、「RFID」と「顔認証システム」の項目を加えました。また、前回からケーブル式盗難防止機器に電源供給機能を付加した装置についてもデータを取り始めました。

アンケート結果からも明らかなように、**こうした新しい製品の出荷数が大きく伸びてきています。**これは、技術の革新とともに、潜在的な顧客ニーズを具現化することに成功した各社の努力によるものだと思います。

当協会としてもこうした新たな製品・市場の拡大に向けて、強力にサポートしていくとともに、多くの小売業の皆様へその機能や効果について情報配信していきたいと考えております。

今回の「万引防止システム市場規模調査報告」

は会員ページの **B_17** に保存されております。